



<報道関係各位>

2021年1月20日
株式会社 QPS 研究所

QPS 研究所の小型高精細 SAR 衛星 2 号機「イザナミ」

いよいよアメリカで打ち上げます

オンライン・パブリックビューイングのご案内

<日時>2021年1月22日(金)23:10~24:50 (予定)

~地球上の準リアルタイムの観測へ向けてさらに加速いたします~

「宇宙の可能性を広げ、人類の発展に貢献すること」を使命に 2005 年に創業した株式会社 QPS 研究所(福岡県中央区、代表取締役社長/GEO:大西俊輔、以下 QPS 研究所)は、約 20 社の九州の地場企業と一緒に開発・製造する小型 SAR 衛星 2 号機「イザナミ」の打ち上げが 2021 年 1 月 22(金)になりましたことをお知らせいたします。

衛星事業者向け打ち上げサービスを提供する Spaceflight(スペースフライト)社との契約によって、小型 SAR 衛星 2 号機「イザナミ」はアメリカの宇宙開発企業スペース X(エックス)が打ち上げる同社の主力ロケット「Falcon 9(ファルコン 9)」に搭載され宇宙へ旅立ちます。今回のミッションは「SXRS-3」と呼ばれ、ライドシェア専用のミッションになります。

この度、「イザナミ」の打ち上げ時に、福岡県庁運営のもと、オンラインにてパブリックビューイングを実施する運びとなりました。打ち上げの様子が見られるライブビューとともに今回のプロジェクトの背景や弊社の技術、開発秘話をお話させていただきます。1号機の打ち上げでは福岡県庁ロビーにて約 500 名のお客様にお集まりいただきパブリックビューイングを行いました。今回は新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言下のため、オンライン配信でその様子をお届けさせていただきます。ぜひご自宅にてお楽しみいただければ幸いです。

※ロケットの都合により打ち上げ日時が急遽変更になる可能性がございますので、予めご了承ください。
打ち上げの時間変更等ございましたら、公式 HP(<https://i-qps.net>)の NEWS、公式 twitter(@QPS Inc)でお知らせいたします。

記

<オンライン・パブリックビューイング詳細>

【イベント名】QPS 小型 SAR 衛星 2 号機「イザナミ」 オンライン・パブリックビューイング

【日 時】2021 年 1 月 22 日(金)23:10~24:50

※ロケットの都合により、急遽日時が変更となる可能性があります。公式 HP をご確認ください。

【打ち上げ予定時刻】23:24(日本時間)

【出演者】ラジーパーソナリティ:中島 浩二氏(進行役)

株式会社 QPS 研究所 代表取締役社長 大西 俊輔、代表取締役副社長 市来 敏光、創業者/研究所長/九州大学名誉教授 八坂 哲雄、NPO 法人円陣スペースエンジニアリングチーム 理事長 當房 睦仁氏

【内容】

- ・23:10~ 配信開始 ロケット打ち上げ準備の様子をご紹介します
- ・23:24~ カウントダウン→打ち上げ→衛星放出(約1時間 10 分の予定です)

※衛星放出までの間は、出演者によるトークセッションをお楽しみください

- ・24:40~ 小川洋福岡県知事祝辞
- ・24:43~ 吉松源昭福岡県議会議長祝辞
- ・24:46~ (株)QPS 研究所大西俊輔から皆様に御礼

【配信 URL】 <https://youtu.be/wWR1iCOYlyE>

※プログラムの順番、内容は変更する可能性があります。



<衛星打ち上げ後の予定>

イザナミは打ち上げ後、太陽同期軌道の高度約 525km に投入され、翌日の朝に地上との初交信のタイミングを迎えます。アンテナを開いた後、データの観測を始め、数ヶ月かけてシステムの調整を行ってまいります。初データの撮影する予定などその後の詳細については順次発表いたします。

QPS 研究所は 2025 年を目標に 36 機の小型 SAR 衛星を打ち上げてコンステレーションを組み、世界中のほぼどこでも約 10 分で地球を観測することができる世界を構築することで、社会の発展と人類の生活の向上に貢献することを目指しています。1 号機「イザナギ」、2 号機「イザナミ」の 2 機はこの準リアルタイムデータ提供サービス構築のための実証機という大切な役割を担っています。1 号機「イザナギ」は 2019 年 12 月 11 日にインドの「サティッシュ・ダワン宇宙センター」より打ち上げられ、翌日には初交信に成功し、以来、安定運用を続けています。イザナギで検証した技術や改善点はすでに 2 号機「イザナミ」へ反映されており、今後は、2 機体制でスムーズな SAR 観測を実現するための知見、経験を広げていき、3 号機以降の衛星開発、打ち上げへと進めてまいります。

<QPS 研究所 オンライン・パブリックビューイング出演者>



代表取締役社長 大西俊輔

九州大学大学院航空宇宙工学専攻博士課程を修了。大学院在籍時より QSAT-EOS（九州大学を中心とした九州地区の大学・企業による 50kg 級小型衛星プロジェクト）のプロジェクトリーダーとしてシステム全般の指揮ならびに大学・企業のメンバーのマネジメントを行い成功に導く。2013 年 10 月有限会社 QPS 研究所に主任研究員として入社。2014 年 4 月に同社の代表取締役社長に就任し現在に至る。



代表取締役副社長 市来俊光

上智大学法学部国際関係法学課卒業。ハーバード大学経営大学院卒業(M.B.A.)。ソニー(株)にてプロダクトマーケティング担当として商品企画、事業戦略策定、新規市場の立ち上げ等に従事。2006 年ハーバード大学経営大学院に留学。帰国後 2010 年 2 月より事業再生のために福岡県大牟田市の太陽光パネル製造会社である YOCASOL(株)に入社。2011 年 6 月代表取締役社長に就任。事業資産譲渡の実現後、2014 年 5 月に株式会社産業革新機構に入社。2016 年 3 月(株)QPS 研究所に入社、同年 7 月に取締役就任。2020 年 7 月に代表取締役副社長に就任。



創業者/研究所長/九州大学名誉教授 八坂哲雄

東京大学大学院工学系研究科航空学専攻博士過程終了。工学博士。1994 年九州大学教授に就任。2003 年には UNISEC(大学宇宙工学コンソーシアム)初代理事長に就任、2008 年から 2012 年には IAF(国際宇宙航行連盟)副理事長を務めるなど、宇宙開発の発展、未来の人材育成に努めて世界の宇宙産業の分野に大きく貢献。2006 年に Frank J. Malina Astronautics Medal を受賞。

<1 号機「イザナギ」&2 号機「イザナミ」 ミッションマーク>

古事記において、『イザナギ』と『イザナミ』は日本を作った神様とされており、QPS 研究所の衛星が「日本発」の衛星であることや弊社の名前 (institute for Q-Shu Pioneers of Space) の一部である「九州 (Q-shu)」の高千穂が天孫降臨の地であることより名付けられました。弊社が創り出す衛星ならびに世界は、この 2 機の衛星から始まるという意味も込められています。ロゴはこの衛星が九州発であること、そして人々の生活を支える土台となるインフラを目指すことを表しています。今回打上げられる「イザナミ」のミッションマークには、すでに宇宙で活躍している 1 号機の「イザナギ」、また街がさらに発展している様子が描かれています。



イザナギ

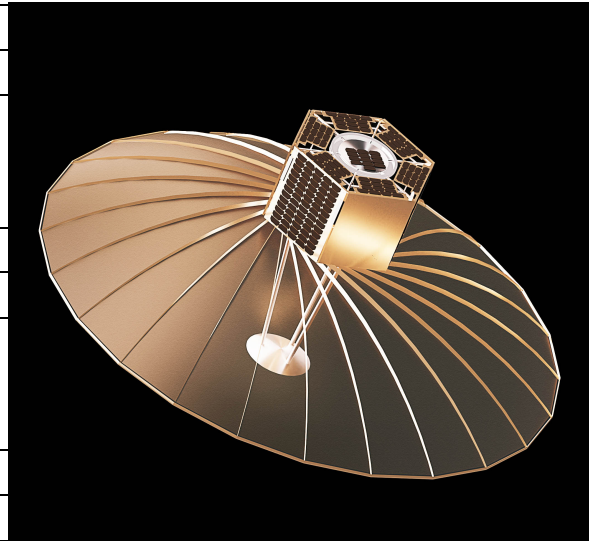


イザナミ



<小型 SAR 衛星 2 号機「イザナミ」詳細>

完 成 日	2020 年 11 月
打 上 げ 予 定 日	2021 年 1 月 22 日 予 定
打 上 げ 場 所	アメリカ・フロリダ州 ケープカナベラル 空軍基地第 40 発射施設 (スペース X 社のファルコン 9)
分 解 能	1m(X バンド)
開 発 期 間	1 年
ア ン テ ナ	カセグレンアンテナ(反射鏡) 直径 3600mm×高さ 1000mm 重量 10kg
パ ス	大きさ 800×800×800mm
全 体 重 量	約 100kg



小型衛星の開発・設計・製造・打ち上げまでを担える企業は日本でも少なく、QPS 研究所の設計・開発能力、ならびに宇宙機器製造に長けた九州地場企業のネットワークがもたらす高い製造技術は高い評価を受けています。QPS 研究所は収納性が高く、超軽量でありながら大型のアンテナ(特許取得)を開発。そのアンテナによって強い電波を出すことが可能になり、下記の特長をもつ小型衛星を実現しました。また、「イザナギ」に比べて「イザナミ」は太陽電池パネルを 3 枚追加し、精細な観測データを取得できるように改良されています。

1.レーダーを使った小型衛星で天候、昼夜いつでも観測可能！

現在使用されているほとんどの観測衛星はカメラを使用し撮影しているため、夜間や悪天候時は撮影できませんが、SAR(Synthetic Aperture Radar / 合成開口レーダー)を使用している QPS 研究所の人工衛星は天候、昼夜関係なく観測が可能です。

2. 超小型・低コスト！の SAR 衛星

SAR 衛星は大きなアンテナと多量の電力を消費するため、小型化には向かず、莫大なコストがかかる技術でしたが、QPS 研究所が開発した小型衛星用の大型軽量アンテナにより 100kg 級の小型 SAR 衛星を実現。今までの SAR 衛星に比べて、20 分の 1 の重量、そして 100 分の 1 のコストになったことで、多数の衛星を打ち上げることも実現可能に。

3. 高解像度のデータ！分解能 1m を実現します

超軽量の大型のアンテナによって強い電波を出すことができ、今までハードルが高かった分解能 1m(車の判別が可能な大きさ)のデータを取得可能。気候データ、市場・経済データ等と組み合わせることで幅広い活用方法が期待されています。

<株式会社 QPS 研究所について>

株式会社 QPS 研究所は、九州の地に宇宙産業を根差すことを目指して、2005 年に九州大学名誉教授の八坂哲雄と桜井晃、そして三菱重工株式会社のロケット開発者の船越国弘により創業されました。九州大学での小型衛星開発の 20 年以上の技術をベースに、国内外で衛星開発や宇宙ゴミ(スペースデブリ)への取り組みに携わってきたバイオニア的存在である名誉教授陣と若手技術者・実業家が幅広い経験と斬新なアイデアをもとに、現在は世界トップレベルの衛星情報ビジネスの創造を目指しています。創業以前より宇宙技術を伝承し、育成してきた約 20 社の九州の地場企業(北部九州宇宙クラスター)とともに人工衛星をはじめ、世界にインパクトを与える数々の宇宙技術開発を行っております。

プレス関係の方のお問い合わせ先 : 株式会社 QPS 研究所
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1-15-35 レンゴー福岡天神ビル 5階
担当名:有吉 TEL: 092-751-3446/080-4344-5423 Email: y.ariyoshi@i-qps.com